

いつの世も、  
狂言はおもしろい。

600年という時間の中で磨かれた技は、  
現代においても、たくさんの人々を楽しませています。



# 野村万作 新狂言の会

狂言「武悪」

狂言「釣針」

出演：野村万作 野村万之介 野村萬斎 石田幸雄 ほか



2007年8月11日(土) 開場18:30 開演19:00 黒部市国際文化センター コラーレ(野外能舞台/400席限定)  
一般 6,000円 高校生以下 2,000円 障害者手帳をお持ちの方 5,000円

当日は18時20分に、チケットの「整理番号」順に整列の上、順次ご入場いただきます。チケットはコラーレだけで発売いたします。  
●この公演は黒部市の助成により低料金に設定しております。 ●5歳未満のお子様のご入場はご遠慮願います。 ●公演中の一時保育(無料)を希望される方は事前にご連絡ください。  
●雨天が予想される場合は雨合羽等をご用意ください。会場内で傘のご使用はお断りいたします。なお、荒天の場合は会場がカーターホールに変更になる場合がございます。予めご了承ください。

主催：財団法人黒部市国際文化センター 共催：北日本新聞社 協賛：チューリップテレビ 後援：黒部市 黒部市教育委員会



# 薪狂言番組

解説 野村萬齋

## 狂言 武悪

ぶあく

主人は召し使う武悪の不奉公を怒り、彼を成敗しようとする太郎冠者に命じます。冠者は主人の太刀を持って武悪の家を訪ねます。武芸に秀でた相手なので、主人へ魚を進上するようすすめ、武悪が生け簀の中で魚をとるところを、だまし討ちしようとしています。しかし武悪が恨み嘆きながら覚悟を決める様子を見て、どうしても討つことができません。遠国へ出奔することを条件に見逃し、主人にはみごと討つたと偽りの復命をします。その後、主人は太郎冠者をつれて東山に出掛け、武悪はお礼参りに清水の観世音へ参ろうとして、三人は鳥辺野のあたりで顔をあわせてしまうのですが……。

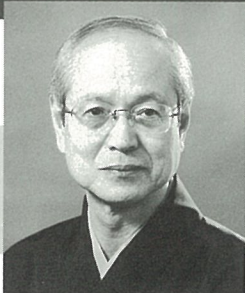
主 野村万之介  
野村万作  
太郎冠者 深田博治  
後見 高野和憲

## 狂言 釣針

つりばり

主人が太郎冠者をとめない西宮に参拝すると、お告げがあります。信心深い主人をほめ、望みの物が手に入る釣針を与えるというものです。そこで二人は釣針を手には、浜に出ます。思案の結果、妻を釣ることにし、またお側の衆も釣り上げます。主人は妻を連れて先に帰り、太郎冠者は残った女たちから自分の妻を選ぼうとするのですが……。

主 石田幸雄  
妻 月崎晴夫  
腰元 高野和憲  
腰元 深田博治  
腰元 時田光洋  
乙 岡 聡史  
野村良作  
竹山悠樹  
後見 野村万作



野村万作 (狂言師)

一九三二年生。故六世野村万蔵の次男。祖父・故初世野村萬齋及び父に師事。重要無形文化財総合指定者。早稲田大学文学部卒業。「万作の会」主宰。狂言の秘曲である「釣針」の演技で芸術祭大賞を受賞した他、紀伊国屋演劇賞、日本芸術院賞、紫綬褒章、坪内逍遙大賞など、多くの受賞歴を持つ狂言界の至宝。国内外で狂言普及に貢献し、ハワイ大、ワシントン大では客員教授を務める。古典はもとより新しい試みにもしばしば取り組み、代表作に「月に憑かれたビエロ」「子牛線の記」「秋江」「法螺侍」などがある。著書に「太郎冠者を生きる」(白水社)、野村万作の巻(岩波書店)がある。二〇〇六年度朝日賞を受賞した。

闇に浮かび上がる能舞台、水面に揺らめく二本のかがり火、野村万作・萬齋親子が舞い謡う――。

カラーレの野外の能舞台は、観客と演者が共に自然の中で交流できるのがすばらしい。今回は「武悪」という一時間近くかかる大曲と、大勢物の楽しい「釣針」を観ていただくことにした。

狂言を観て元気をもらったと書かれたアンケートをよく読むことがある昨今である。人間讃歌の劇だからであろう。古典の中に今に通じる普遍性を見出し、また肩の力を抜いて大いに笑って観ていただけだと思っている。

狂言を観て元気をもらったと書かれたアンケートをよく読むことがある昨今である。人間讃歌の劇だからであろう。古典の中に今に通じる普遍性を見出し、また肩の力を抜いて大いに笑って観ていただけだと思っている。

## 野村万作



野村万之介 (狂言師)

一九三九年生。故六世野村万蔵の五男。父に師事。重要無形文化財総合指定者。五歳のときに「鉢叩」で初舞台。「万之介狂言の会」主宰。狂言界の代表的演者の一人。芸術選奨文部大臣新人賞受賞。亡父の洒脱さを継承した芸には定評がある。「万作の会」の重要メンバーとして、海外公演にもたびたび参加。また、東京大学、早稲田大学の狂言サークルを指導して久しい。



野村萬齋 (狂言師)

一九六六年生。野村万作の長男。祖父・故六世野村万蔵及び父に師事。重要無形文化財総合指定者。東京芸術大学音楽学部卒業。「狂言ござる乃座」主宰。国内外の狂言・能公演はもとより、現代劇や映画の主演、古典の技法を駆使した作品の演出など幅広く活躍。九四年に文化庁芸術家在外研修制度により渡英。芸術祭新人賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、紀伊国屋演劇賞、朝日舞台芸術賞等を受賞。著書に「萬齋でござる」(朝日文庫)、「狂言三人三様・野村萬齋の巻」(岩波書店)等がある。世田谷パブリックシアター芸術監督。



石田幸雄 (狂言師)

一九四九年生。野村万作に師事。重要無形文化財総合指定者。「雙ノ会」主宰。すでに数多くの優れた舞台歴を持つ野村家の重要な演者。大曲の「三番叟」「釣針」「花子」をすでに初演。また新しが試みの舞台にも意欲的な発表が多い。普及公演での的確な解説にも定評がある。「万作の会」の海外公演にもたびたび参加。日本大学芸術学部、学習院大学非常勤講師。「雙ノ会」で二〇〇六年度芸術祭大賞を受賞した。